

報 告

看護学臨地実習指導者の自己教育力のとらえ方

Perception of The Self-Directed Learning of the Clinical Nursing Instructors

千葉今日子, 富田 幸江, 横山ひろみ

Kyoko Chiba, Sachie Tomita, Hiromi Yokoyama

キーワード：自己教育力, 臨地実習指導者, とらえ方

Key words : self-directed learning, Clinical Nursing Instructors, Perception

要 旨

本研究の目的は、臨地実習指導者（以下指導者）の自己教育力のとらえ方を明らかにすることである。指導者9名にインタビューを実施し質的帰納的方法による内容分析を行った。その結果、指導者の自己教育力のとらえ方は、【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】、【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】の2大カテゴリに分類された。

【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】は、《教育に必要な知識・技術を求める姿勢》《自己成長への思い》《学生が実習目標を達成できるための指導者の姿勢》《看護を迫る姿勢》《自分の役割》《自分の存在の意味》の6中カテゴリ、24の小カテゴリで構成された。また、【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】は、《学生の理解に努める》《助言・相談を通して実習指導を学ぶ》《学生に看護を伝える》《自己を振り返る》《学生と共に学ぶ》の5中カテゴリ、15の小カテゴリで構成された。

この結果から、指導者がとらえた【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】、【他者とのかかわりを通じて獲得していく自己教育力】は、質の高い実習指導をおこなうことに繋がることから、指導者の自己教育力を測るための尺度開発に活用できると考える。

I. はじめに

看護基礎教育において看護学臨地実習（以下実習）は、看護学生にとって、看護師としての知識・技術・態度を統合する重要な学習であり、看護学臨地実習指導者（以下、指導者）は、実習での学生の学びを支援する役割を担っている。

指導者の指導能力向上について、厚生労働省（2011）は、「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」において、指導能力が向上するための学習の機会を設ける

など、指導者の育成を推し進めている。この背景には、指導者は、不安や困難を持ちながら指導をしており、指導者の指導力を高めるための研修会などの継続学習を充実することの必要性や、継続学習の核として、指導者自身の自己を成長・発展させ、主体的に学習する自己教育力を培う学習の重要性を指摘している（泊ら, 2010）ことが挙げられる。

自己教育力という用語は、1983年に中央教育審議会（文部科学省）が、「主体的に学ぶ意志・態度・能力」として打ち出している。それ以来、わが国の教育学研究、

受付日：2017年9月30日 受理日：2018年1月26日

埼玉医科大学保健医療学部看護学科

看護学教育研究において、頻繁に用いられている（能見，2014）。看護職の自己教育力に関する先行研究においても、2003年以降に増加傾向にあり注目されている。また、先行研究の多くは、量的研究であり、使用されている尺度は、梶田（1985）の開発した尺度を基盤に、西村ら（1995）が看護師を対象として信頼性・妥当性を検討した自己教育力測定尺度である。

このように、看護師の自己教育力に関する研究が増加傾向にある一方で、指導者の自己教育力を明らかにした先行研究は、2件のみであった（松澤ら，2009；千葉ら，2016）。松澤ら（2009）は、指導者の自己教育力について、自己教育力の高い指導者は、学生の学習に効果的な影響を及ぼす教師効力も高いことを明らかにしている。また、千葉ら（2016）は、指導者の自己教育力は、指導者自身のやる気などの達成動機と強く関連していることや、学生から承認される、学生に信頼されるなど良好な関係が、指導者の自己教育力に関連していることを報告している。これら先行研究の2件で用いられていた自己教育力の尺度はいずれも、西村ら（1995）が作成した自己教育力測定尺度であった。しかし、西村ら（1995）が看護師を対象に開発した尺度は、開発から約20年が経過したものであり、現在まで新たな尺度開発がされていない。そのため、対象者の近年の学習方法の変化や、現任教育が充実してきた中で、指導者の自己教育力について、時代の変遷など反映を受けておらず、対象者自身がとらえる自己教育力が測定されていない可能性が考えられる。

現在の医療の高度化、高齢社会、在院日数の短縮などの状況にある実習環境の中で、学生が看護の学びを深めるためには、質の高い指導者の育成が重要であり、そのために、指導者の指導力の基盤となる自己教育力を高めることが重要である。

そこで、本研究では、指導者の自己教育力のとらえ方を明らかにし、それらを基に指導者の自己教育力の尺度開発をめざすための第1段階として、指導者がとらえる自己教育力とはどのようなものかをインタビューを通して質的帰納的研究により明らかにする。

II. 研究目的

看護学臨地実習指導者の自己教育力に関する研究の一環として、本研究では、指導者の自己教育力のとらえ方を明らかにする。

III. 用語の定義

1. 看護学臨地実習指導者

実習指導者講習会などの指導者研修を受け、実習施

設内で看護管理責任者から任命された看護学生の実習指導を担当する看護教員を除く看護師とする。

2. 自己教育力

指導者が、実習指導をする基盤として指導効果を高める重要な力であり、個人の成長・発展に向けて、主体的、継続的に学習する態度を自己を教育する力とする。

3. 自己教育力のとらえ方

指導者が上記の自己教育力について、とらえている自分自身の意識や認識とする。

IV 研究方法

1. 調査対象

A県内の大学病院において、看護学生の実習指導にあたる実習指導者を対象とした。3年以上の臨床経験をもち、厚生労働省が指定する看護学臨地実習指導者講習会の受講を修了し、看護管理者より任命されて実習指導にあっている看護師を対象とした。

2. 調査方法

1) データの収集方法

A県内にある300床以上の大学病院を抽出した。各施設の看護管理責任者へ研究協力依頼文書、インタビュー調査説明書、研究協力承諾書を返信用封筒とともに送付し、研究協力を依頼した。そのうち、研究協力の承諾が得られた施設の看護管理責任者に、研究協力説明書、研究協力同意書、返信用封筒を郵送し、調査対象者への配布を依頼した。インタビューに同意が得られた対象者から研究協力同意書が郵送により返信され、個々に面接日時、場所などについて調整し、2017年2月～4月にインタビューを実施した。

なお、300床以上の大学病院とした理由は、設置主体による職場環境や労働条件、教育体制などがほぼ同様な状況にあると考え、データからのバイアスを少なくするためである。

2) 調査内容

指導者の自己教育力のとらえかたについて、以下のようにインタビューを実施した。

なお、インタビューの内容は、研究者らで検討を重ね、インタビューガイドを作成した。インタビューは、プライバシーが確保できる場所で行い、1回30分程度とした。

(1) 対象者の特性：性別、年齢、婚姻状況、子育て経験、臨床経験年数、職位、指導者経験年数、実習指導体制、臨地実習指導者講習会受講動機と受講後の年数の10項目とした

(2) インタビューの視点：指導者が自己を教育する力をどのようにとらえているかとした。

3) データの分析方法

- (1) 「対象者の特性」について、記述統計を算出した。
 (2) 「指導者の自己教育力のとらえ方」について、質的帰納的方法による内容分析を行った。対象者に同意を得て録音したインタビューから逐語録を作成し、その内容について、対象者から確認を得た。

実習指導者の自己教育力について語られている部分の文章・段落を、文脈上で意味内容を損なわないように類似性に基づいて一意味一内容として区切り、コード化して内容を検討した。次に、コード化した内容を分類し、それらの内容を忠実に反映し、小カテゴリ、中カテゴリ、大カテゴリにカテゴリ化を実施した。最後にカテゴリ毎にコードの出現頻度を数量化し、コード数を集計した。

これらは、カテゴリの信頼性を確保するために、内容分析の経験者、かつ実習指導経験をもつ複数の看護学研究者によって行った。また、信頼性の確認は、実習指導経験者、質的研究に精通した看護学研究者3名で、合意が得られるまで検討を重ねた。

V. 倫理的配慮

疫学研究に関する倫理指針（14 文科振第 123 号）に基づき、埼玉医科大学保健医療学部倫理委員会の承諾を得て実施した（承認番号 153）。

対象病院には調査の主旨を文書にて説明し、看護管理責任者の許可を得た。調査対象者に対し、得られた情報は研究目的以外には使用せず、プライバシーの保護、個人情報の保護に努め、調査に伴う利益・不利益、研究結果の公開を説明した上で、研究参加への自由性を文書および口頭で説明した。研究協力同意書の返送により、同意が得られたものとするを文書で説明した。インタビュー実施時に文書および口頭で再度確認し、研究協力依頼を行った。なお、研究者と調査対象者の間に申告すべき利益相反（COI）は存在しない。

VI. 結果

A 県内にある 300 床以上の大学病院 8 施設を抽出し、4 施設（承諾率 50.0%）の看護管理責任者より承諾を受けた。これらの施設における該当対象者 29 人に研究協力を依頼し、同意を得るために、研究協力説明書、研究協力同意書を郵送した。

研究協力の同意が得られた 10 人（回収率 34.5%）のうち、看護管理者を除く 9 名を本研究の解析対象とした。

1. 対象者の特性（表 1）

対象者の特性について、年齢は 30～47 歳、看護師経験は 8～26 年、指導者経験は 5～23 年、臨地実習指導者講習会受講後、2～13 年であった。性別は、男性 1 名、女性 8 名、実習指導体制は、専任 1 名で、ほかの 8 名は兼任であった。

表1 対象者の属性

年齢	性別	看護師経験 (年)	指導体制	指導者経験 (年)	指導者講習会 受講後(年)
30	女性	10	兼任	5	2
30	女性	8	兼任	5	3
32	男性	10	兼任	5	3
39	女性	16	兼任	11	10
40	女性	18	兼任	15	10
40	女性	16	専任	14	9
44	女性	22	兼任	18	8
47	女性	10	兼任	5	4
47	女性	26	兼任	23	13

2. 指導者の自己教育力のとらえ方（表 2）

対象者のインタビューを逐語録におこした結果、この 333 コードが抽出された。この 333 コードのうち、実習指導方法に関する語り 15 コード、質問内容に関係しない語り 7 コードを除き、自己教育力のとらえ方が具体的に語られている 311 コードを分析対象とした。

311 コードを意味内容の類似性に基づき分類した結果、自己教育力をとらえる 39 小カテゴリ、11 中カテゴリから 2 大カテゴリが抽出された。

以下、本文中の大カテゴリ【 】, 中カテゴリ《 》, 小カテゴリ< >, コード「 」で示し, [] 内は, 各カテゴリを形成したコード数とそれが総コード数に占める割合を示す。

1) 【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】

【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】に関する大カテゴリは、175 コード、24 小カテゴリ、6 中カテゴリで構成され、総コード数の 56.3%を占めた。

中カテゴリ 1 つ目の《教育に必要な知識・技術を求める姿勢》は、<学習ツールを活用する力><学び続ける姿勢><学び追及する姿勢><教育に必要な知識・技術を求める力><自信のなさを克服する姿勢><教育に必要な知識・技術を磨く力><知識・技術を求める行動><専門性を深めたい>の 8 小カテゴリで構成された[82 コード, 26.0%]。

これは、「実習指導には教育の知識・技術を得る」や自分たちが受けてきた指導とは違うため、「学生に合わせた指導を学ぶ」など、<教育に必要な知識・技術を求める力>を持つこと、さらにその<知識・技術を求める行動>として自己教育力をとらえていた。また、「学生の教本を確認する」や「指導者会議で学ぶ」、「学会に参加する」など、<学習のツールを活用する力>を基盤

表2 看護学臨地実習指導者の自己教育力のとらえ方

総コード数311 (100%)

大カテゴリ コード合計 (%)	中カテゴリ コード合計 (%)	小カテゴリ	コード数		
実習指導者自身で 獲得していく 自己教育力 175 (56.3%)	教育に必要な知識・技術を求める姿勢 82 (26.0%)	学習ツールを活用する力	34		
		学び続ける姿勢	11		
		学び追及する姿勢	10		
		教育に必要な知識・技術を求める力	10		
		自信のなさを克服する姿勢	8		
		教育に必要な知識・技術を磨く力	4		
		知識・技術を求める行動	3		
		専門性を深めたい	2		
		-----	-----	-----	-----
		自己成長への思い 35 (11.3%)	実習指導に充実感をもつ	実習指導に充実感をもつ	13
				成長したい・自分を高めたい	11
				仲間と高め合う	1
				学ぶことに関心をもつ	3
やる気を高める	7				
-----	-----	-----	-----		
学生が実習目標を達成できるための 指導者の姿勢 27 (8.7%)	学生が力を発揮できる実習指導をしたい	学生が力を発揮できる実習指導をしたい	15		
		目標をもって行動すること	8		
		指導者の実習指導に対する姿勢	4		
-----	-----	-----	-----		
看護を追及する姿勢 19 (6.1%)	目指す看護師像を実現する努力	目指す看護師像を実現する努力	12		
		看護力を高める	4		
		看護の魅力を実感する	3		
-----	-----	-----	-----		
自分の役割 7 (2.2%)	自分の役割を自覚する	自分の役割を自覚する	3		
		指導者としての責任を果たす行動	2		
		指導者として自覚をもった行動	2		
-----	-----	-----	-----		
自分の存在の意味 5 (1.6%)	存在の意味	存在の意味	3		
		自分の人生を考える	2		
他者とのかかわり を通して獲得して いく自己教育力 136 (43.7%)	学生の理解に努める	学生を理解する	18		
		学生の学習を確認する	12		
		学生の声を聴く	8		
		学生を褒める	4		
	-----	-----	-----	-----	
	助言・相談を通して実習指導を学ぶ	学生がより学びを得るために助言をもらう	学生がより学びを得るために助言をもらう	14	
			学生への対応について相談する	12	
			指導者同士での連携・共有	7	
-----	-----	-----	-----		
学生に看護を伝える	学生に伝える	学生に伝える	18		
		学生のロールモデルでありたい	8		
		伝えたい看護	2		
-----	-----	-----	-----		
自己を振り返る	自分自身に向き合うこと	自分自身に向き合うこと	6		
		実習指導を振り返ること	6		
		他者を通して自己を振り返ること	5		
-----	-----	-----	-----		
学生と共に学ぶ	学生から学ぶことができる	学生から学ぶことができる	10		
		学生と共に振り返り学ぶ	6		

として、「指導者としての自己を高めたい・目標とする人に追いつきたいと考えて努力する」という＜学び追及する姿勢＞を持ちながら、「目標に向かって学び続ける」、「実習指導の学習を継続する、繰り返す」などから＜学び続ける姿勢＞として自己教育力をとらえていた。その一方で、「指導者として相応のレベルに到達しているか自信がない」、「実習指導を上手くやれていない」と話し、＜自信のなさを克服する姿勢＞をもつことも自己教

育力であるにとらえていた。さらに、「実習指導を通して認定看護師を目指したい」など＜専門性を深めたい＞という側面からも自己教育力をとらえていた。

次に中カテゴリ2つ目の《自己成長への思い》は、＜実習指導に充実感をもつ＞＜成長したい・自分を高めたい＞＜仲間と高め合う＞＜学ぶことに関心をもつ＞＜やる気を高める＞の5小カテゴリで構成された〔35コード、11.3%〕。

これは、実習指導を通じて感じる嬉しさや楽しさ、達成感ややりがいなどの「実習指導に充実感をもつ」ことが「もっとすてきな指導者になりたい」や「指導者であり続けたい」と「やる気を高める」として、「実習指導を通じて成長したい」、「指導者として、看護師として模索する」、「在りたい自分を目指す自分磨き」、成長したい・自分を高めたい」ことを自己教育力ととらえていた。

中カテゴリ3つ目の《学生が実習目標を達成できるための指導者の姿勢》は、「学生が力を発揮できる実習指導をしたい」<目標をもって行動すること>指導者の実習指導に対する姿勢」の3小カテゴリで構成された〔27コード, 8.7%〕。

これは、「学生のもつ力を大切にしたい」、「学生が萎縮せず、力を発揮できるようにしたい」、「学生の意欲を高められるようにしたい」など、「学生が力を発揮できる実習指導をしたい」ために、「目標をもって行動すること」として「積極的に話しかける」や「笑顔でいるようにする」などの「指導者の実習指導に対する姿勢」であった。

中カテゴリ4つ目の《看護を迫及する姿勢》は、「目指す看護師像を実現する努力」<看護力を高める><看護の魅力を実感する>の3小カテゴリで構成された〔19コード, 6.1%〕。

これは、「看護を探求し続けられる魅力を感じる」、「もっと看護を極めたい」など、「看護の魅力を実感する」としながら、「看護力を高める」ことを自己教育力ととらえていた。さらに、「理想の看護師をめざしたい」、「ジェネラリストになりたい」など「目指す看護師像を実現する努力」をしていくことも自己教育力としてとらえていた。

中カテゴリ5つ目である《自分の役割》は、指導者として、「自分の役割を自覚」し、「自分の役割を果たす行動に責任をもつ」ことなど、「自分の役割を自覚する」<指導者としての責任を果たす行動>指導者として自覚をもった行動」の3小カテゴリ〔7コード, 2.2%〕、中カテゴリ6つ目の《自分の存在の意味》は、「実習指導を通してキャリアアップを考える」など「存在の意味」<自分の人生を考える>の2小カテゴリ〔5コード, 1.6%〕であった。

2)【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】

【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】に関する大カテゴリは、136コード, 15小カテゴリ, 5中カテゴリで構成され、総コード数の43.7%を占めた。

中カテゴリ1つ目の《学生の理解に努める》は、「学生を理解する」<学生の学習を確認する><学生の声を聴く><学生を褒める>の4小カテゴリ、で構成された〔42コード, 13.5%〕。

これは、「学生を受け入れる」、「学生の声を大切にきく」、「学生のいいところをほめ、その学生らしさを伸ばしていくこと」、「学生が理解できたかどうか確かめ、理解できるまでやり取りを繰り返す」など、「学生を理解する」<学生の学習を確認する><学生の声を聴く><学生を褒める>という学生を大切に理解する指導者の姿勢などとして、「学生の理解に努める」を指導者の自己教育力ととらえていた。

中カテゴリ2つ目の《助言・相談を通して実習指導を学ぶ》は、「実習指導を通じて」、「尊敬できる先輩に学習方法を聞く」や「思うように指導ができない場合に学生への対応を相談する」などの、「学生がより学びを得るために助言をもらう」<学生への対応について相談する>と、「指導者同士で学生の状況を共有する」、「統一した指導や関わりができるように指導者同士で伝え合う」など「指導者同士での連携・共有」の3小カテゴリで構成された〔33コード, 10.6%〕。

中カテゴリ3つ目の《学生に看護を伝える》は、「学生の手本となるように心がけている」や「ケアの意味や、伝わっているかを確認する」など、「学生のロールモデルでありたい」として、「学生に「伝えたい看護」を大切にすること、<学生に伝える>こととした、3小カテゴリで構成された〔28コード, 9.0%〕。

中カテゴリ4つ目の《自己を振り返る》は、「自分が学生に教えることに向き合う」として「自分自身に向き合うこと」、「指導者として学生の時の経験を振り返る」、「指導場面を振り返る」など「実習指導を振り返ること」、「学生の反応から自己を振り返る」など「他者を通して自己を振り返ること」の3小カテゴリで構成された〔17コード, 5.5%〕。

中カテゴリ5つ目の《学生と共に学ぶ》は、「学生の姿から見習うものがある」、「学生の声から発見することや学ぶことが沢山ある」となどの「学生から学ぶことができる」と、「学生と一緒に考える」、「学生と一緒に振り返り、調べる」などの「学生と共に振り返り学ぶ」の2小カテゴリで構成された〔16コード, 5.1%〕。

VII. 考察

看護学臨地実習指導者の自己教育力のとらえ方を明らかにするために、指導者9名に半構成的面接法を用いて内容分析を実施した。その指導者は、年齢、臨床経験年数、指導者経験年数など、多様な特性をもつ指導者を含んでおり、本研究で明らかになったカテゴリが多様な特性を持つ指導者の自己教育力のとらえ方を反映していると考えられる。

さらに、本研究対象の指導者の自己教育力のとらえ方は、【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】、【他

者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】の2大カテゴリに分類できた。以下、大カテゴリごとに考察する。

1. 【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】について

このカテゴリは、《教育に必要な知識・技術を求める姿勢》《自己成長への思い》《学生が実習目標を達成できるための指導者の姿勢》《看護を迫及する姿勢》《自分の役割》《自分の存在の意味》の6中カテゴリ、24小カテゴリで、総コード数の約6割を占めた。

《教育に必要な知識・技術を求める姿勢》について、コード内容をみると「学生の教本を調べ練習する」、「指導者会議で学ぶ」など学生の学習にあわせて自身で工夫をしながら学習していた。さらに、学会や研修会に参加し、最新の看護を自ら深め、それらを統合して実習指導に活かしている行動を自己教育力ととらえていた。この結果から、指導者の自己教育力のとらえ方は、学生指導のために、教育への知識や指導方法を自ら求め行動していたことが明らかになった。梶田（1985）は、自己教育力の1つの側面として、自ら学び続けていくための基盤となる学び方の知識と技能をもつ重要性を述べている。この側面は、西村ら（1995）の看護師を対象にした自己教育力測定尺度の質問項目においても示されている。しかし、この尺度の質問項目は、現在の学び方に応じていないまま使用され続けている課題がみられていた。このため、指導者の自己教育力を評価し、実習指導に活用できる尺度開発が必要であると考えられる。

《学生が実習目標を達成できるための指導者の姿勢》について、コード内容をみると、指導者は「学生が自分の力を十分に発揮してほしい」などのねがいをもち、学生にとって「安心できる人、頼れる人でありたい」という姿勢を自己教育力の1つとしてとらえていた。そして、学生を大切に思う指導者は、学生の実習目標の達成のために、自身に目標を映し、「自身が尊敬する指導者のようになりたい」「学生のロールモデルになりたい」のように、指導者としての目標を定めて行動していた。これは、学生の実習目標を達成するために、指導者として独自の自己教育力の内容であると考えられる。指導の対象である学生の実習目標の達成は、ロールモデルである指導者の働きかけが大きな影響を及ぼすことから、指導者の姿勢は特に重要であり（安酸, 2015）、本研究でも指導者の自己教育力のとらえ方として、重要な要素となっていたことが明らかになった。

《自己成長への思い》《看護を迫及する姿勢》《自分の役割》《自分の存在の意味》に関する内容を自己教育力の要素としてとらえていた。これらの要素は、実習指導が「楽しい・達成感がある・やりがいがある」などの充

実感をもてることになり、それは、実習指導のやりがいや、指導者としての「やる気の高まり」になっていると推察できる。これらのコード内容をみると、指導者として「もっと成長したい」、「自己を高めたい」という思いにとどまらず、「看護の専門性を高めたい」と「目指す看護師像を実現する努力」をすることを自己教育力としてとらえていることが窺える。そして、富田ら（2012）の報告と同様に、指導者としてこれまで培ってきた看護の信念が指導者の中に存在し、それらを学生へ伝えることによって、さらに看護の力を高めたい、キャリアアップしたいという前向きな学習姿勢は、本研究対象の自己教育力のとらえ方と一致すると考える。

このように、指導者の自己教育力のとらえ方は、指導者としての役割やそうある自己の意味を自覚すること、在りたい姿を描き、さらに成長したいと、看護を迫及する姿勢として、《自己成長への思い》《看護を迫及する姿勢》《自分の役割》《自分の存在の意味》が関係しあい、自己教育力の内容として抽出されたと考える。

2. 【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】について

このカテゴリは、《学生の理解に努める》《助言・相談を通して実習指導を学ぶ》《学生に看護を伝える》《自己を振り返る》《学生と共に学ぶ》の5中カテゴリ、14小カテゴリで構成され、総コード数の約4割を占めた。

《学生の理解に努める》《学生と共に学ぶ》《学生に看護を伝える》について、指導者が、指導の対象である学生を理解し、専門家として看護を意味づけ、学生と共に学び、共に成長していく姿勢を自己教育力ととらえていたことが明らかになった。

また、安酸（2015）は、指導者と学生とのよい関係は、相互に成長しあう関係となり、指導者自身の成長に繋がると報告している。指導者として、学生と良好な関係を形成する態度は、教育の基盤として重要である。これらについて主なコード内容をみると、指導者が「自身の学生の時を思い出しながら、学生を理解しようと関わる」ことは、学生の立場に立った指導に繋がり、学生の学習を支援するものとなる。それは、指導者の良好な関係を築くことに繋がる。また、「学生が患者さんとの話を伝えてくれたことで、患者さんの思いが分かった」など、学生からの学びを実感していた。このように、学生に関心をもち、声を聴き、語り合う中で、学生から気づかされることもあり、学生を一人の看護者として受け入れ、認めながら、《学生と共に学ぶ》ことを自己教育力の重要な要素ととらえていた。このような援助的關係について、ペプロー（1973）は、対象をありのままに理解する姿勢が、安心・信頼となり、相互の成長に働きかけられることで、共に成熟へ導くと述べており、指導者が自

己教育力を培う基盤になっていると考える。

さらに、《学生に看護を伝える》では、実習で経験したことを、看護として意味づけ（千葉ら、2016・富田ら、2012）、看護の専門家として手本になるように示すなどの、《学生に看護を伝える》態度を指導者の自己教育力の一つとしてとらえていた。

このように、指導者の自己教育力は、指導者として、指導の対象である学生に関心を向け、働きかける上で必要な力として、《学生の理解に努める》《学生と共に学ぶ》《学生に看護を伝える》が、自己教育力の要素として抽出されたと考えられる。

さらに、《助言・相談を通して実習指導を学ぶ》について、指導経験のある先輩や病棟管理者、教育者である教員へ相談する・助言を受ける姿勢を、指導者は自己教育力としてとらえていたことが明らかになった。主なコード内容をみると、「尊敬できる先輩に学習方法を聞く」や「思うように指導ができない場合に学生への対応を相談する」など、＜学生がより学びを得るために助言をもらう＞＜学生への対応について相談する＞こととして、「指導者同士で学生の状況を共有する」、「統一した指導や関わりができるように指導者同士で伝え合う」など＜指導者同士での連携・共有＞についても自己教育力の要素としてとらえていることが窺えた。

この【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】は、臨地実習において、対象との相互作用の中で、共に成長し発達し続けるという学生と指導者の教育的関係の特徴としており、そのような関係を通して指導者が自己教育力をとらえていると推察できる。

VIII. 本研究の看護への示唆

本研究結果より、指導者は自己教育力について、【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】、【他者とのかかわりを通じて獲得していく自己教育力】ととらえていることが明らかになった。これは、指導者の自己教育力測定尺度の開発に活用できる重要な内容であり、指導者の自己教育力を高めるプログラム開発にも活用できると考える。自己教育力尺度の開発は、指導者の自己評価となり、学生の指導に還元されることから、看護教育の質の向上に寄与できると考える。

IX. 今後の課題

本研究では、役職をもたない9名の指導者に焦点をあて、指導者の自己教育力のとらえ方を明らかにした。本研究対象者から得られた結果は、指導者がとらえる自己教育力を想定できる1つの資料となると考える。今後は、本研究で明らかになった指導者の自己教育力のと

らえ方を基に、指導者が自己教育力を自身で評価し、自己成長のための振り返りツールとしても活用できる自己教育力尺度の開発に活用したいと考える。

X. 結論

1. 指導者の自己教育力のとらえ方は、【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】、【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】、の2大カテゴリに分類できた。
2. 指導者がとらえた【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】は、《教育に必要な知識・技術を求める姿勢》《自己成長への思い》《学生が実習目標を達成できるための指導者の姿勢》《看護を迫及する姿勢》《自分の役割》《自分の存在の意味》の6中カテゴリ、24小カテゴリで構成されていた。
3. 指導者がとらえた【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】は、《学生の理解に努める》《助言・相談を通して実習指導を学ぶ》《学生に看護を伝える》《自己を振り返る》《学生と共に学ぶ》の5中カテゴリで構成されていた。
4. 指導者がとらえた【実習指導者自身で獲得していく自己教育力】、【他者とのかかわりを通して獲得していく自己教育力】は、質の高い実習指導をおこなうことに繋がることから、指導者の自己教育力を測るための尺度開発に活用できると考える。

謝 辞

本研究を実施するにあたり、本研究にご協力いただきました病院の看護管理責任者の方々、臨地実習指導者の皆様に深く感謝申し上げます。

文 献

- 千葉今日子、富田幸江（2016）：看護学臨地実習指導者の自己教育力とその関連要因、埼玉医科大学看護学科紀要，9（1），19-29.
- 舟島なをみ（2007）：質的研究への挑戦 第2版，医学書院，東京．
- 梶田毅一（1985）：自己教育への教育，明治図書，東京．
- 小林洋子，西村千代子，奥野 茂代，他2名（1999）：看護婦の自己教育力の変化－看護継続教育1年後の自己教育に関連する要因，看護教育，40（2），127-132.
- 厚生労働省（2011）：看護教育の内容と方法に関する検討会

- 報告書.
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000013l0q-att/2r98520000013l4m.pdf>.
- 丸山智子 (2012) : 中小規模実習施設の実習指導者の実習指導に対する認識と職位の関係, 福岡女学院看護大学紀要, **3**, 35-41.
- 松澤由香里, 休波茂子 (2009) : 臨地実習指導者の教師効力に関連する要因の検討, 日本看護学教育学会誌, **18** (3), 35-45.
- 西村千代子, 奥野茂代, 小林洋子 (1995) : 看護婦の自己教育力 - 自己教育力測定尺度の検討 -, 日本赤十字社幹部看護婦養成所紀要, **11**, 22-39.
- 西村正子, 瀧井ヒロミ, 湯舟貞子 (2003) : 看護職者の生涯学習 (その1) 自己教育力と今後の課題, 岐阜大学医学部紀要, **51** (3), 218-223.
- 能見清子, 杉田由加里, 吉本照子 (2014) : 看護師の自己教育力の発展を促すための課題 - 看護師の自己教育力に関する概念と関連因子についての文献検討より -, 千葉看護学会, **19** (2), 65-72.
- 大堀昇, 富田幸江, 天野雅美, 他 1 名 (2012) : 臨地実習指導者の実習指導に対する態度の特徴と関連要因, 看護教育研究学会誌, **4** (2), 3-13.
- O' Shea, E. (2003) : Self-directed learning in nurse education: a review of the literature, J Adv Nurs, **43** (1), 62-70.
- Peplau, H. E. (1952) / 稲田八重子他 (1973) : 人間関係の看護論. 15-16, 医学書院, 東京.
- 白木智子 (2009) : 実習指導者の実習指導に対する教師効力とその関連要因, インターナショナル Nursing Care Research, **8** (3), 33-43.
- 泊祐子, 栗田孝子, 田中克子 (2010) : 臨地実習指導者の指導経験による“指導のとらえ方”の変化と必要な支援の検討, 岐阜県立看護大学紀要, **10** (2), 51-57.
- 富田幸江, 仙田志津代 (2012) : 看護基礎教育における実習指導のエッセンスを伝える実習指導者講習会 (その1) 実習指導に望まれる指導者としての力量, 看護教育, **53** (3), 212-218.
- 矢ヶ部友美, 坂井真愛, 津田裕美, 他 2 名 (2008) : 臨床看護師の自己教育力とその特性・ソーシャルサポートとの関連, 日本看護学会論文集, 看護管理, **39**, 336-338.
- 安酸史子 (2015) : 経験型実習教育 看護師をはぐくむ理論と実践, 医学書院, 東京.